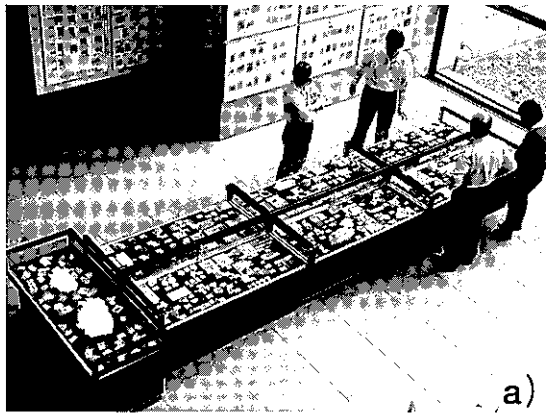




No.63

特別展示「切手の鉱物-世界の鉱物切手コレクションから-」

地質標本館では、2002年度科学技術週間特別展示として「切手の鉱物-世界の鉱物切手コレクションから-」を開催しました。秋田大学・丸山孝彦教授からお借りした鉱物切手コレクションを、切手に用いられている鉱物の実物標本と並べて展示するという企画です。収集家でもある丸山氏のコレクションと、当館の誇る鉱物標本とがうまく合体した展示でありました。丸山氏からは、以前、当館における化石切手の展示(利光誠一(1997):切手に見る化石の世界。地質ニュース, no.511, 65-66)の際にもお世話になりました。重ねて感謝いたします。



a)

水晶	アフリカ3	アフリカ2	アフリカ1
	アメリカ	ヨーロッパ, NIS	アジア

b)

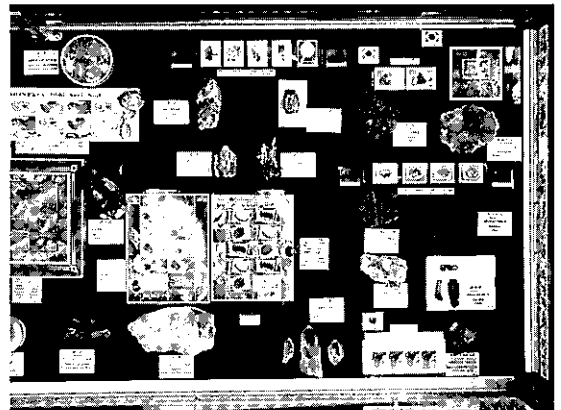
第1図 a) 特別展示開幕前日, ようやく完成した平形展示ケースを前に, b) 平形展示ケース概略。

第1表 鉱物切手展示パネルの内訳。

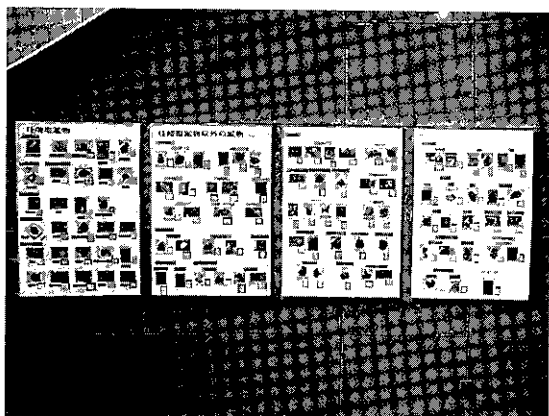
- (1) 鉱石-1 非金属1
- (2) 鉱石-2 非金属2
- (3) 鉱石-3 非鉄金属1
- (4) 鉱石-4 非鉄金属2
- (5) 鉱石-5 鉄属金属
- (6) 鉱石-6 金, 銀, 石炭, 石油, その他
- (7) 宝石-1 硬度9未満
- (8) 宝石-2 硬度9以上
- (9) 珪酸塩鉱物
- (10) 珪酸塩鉱物以外の鉱物 その1
- (11) 珪酸塩鉱物以外の鉱物 その2
- (12) 珪酸塩鉱物以外の鉱物 その3
- (13) 鉱物の色
- (14) 鉱物の硬さ(モース硬度計)
- (15) いろいろな鉱石
- (16) 人気のある宝石・装飾用鉱物ベスト5
- (17) ベスト5以外の宝石・装飾用鉱物
- (18) 誕生石(日本・英語圏・ドイツ語圏の比較) 1-6月
- (19) 誕生石(日本・英語圏・ドイツ語圏の比較) 7-12月

展示会場は標本館1階ロビーで、平形展示ケースの中に、国別に分類した切手と、それに対応する鉱物標本とが並べて展示されました(第1, 2図)。また、展示スペース壁面には、様々なテーマに基づいて分類された鉱物切手がアルミ額入りの19枚のパネルの形で展示されました(第3図, 第1表)。

展示された切手は全部で802枚、鉱物標本は209個(カットストーン43個含む)でした。鉱物切手はアフリカ諸国のものが圧倒的に多く、展示には平形ケースが3個も必要でした(第1図b)。その反面、日本からは「鉱物切手」と呼べるようなものは残念ながら今までほとんど発行されていません。昨年(2001年), ふるさと切手「富士山と宝飾の山梨」という、富士山, 巨峰とともに、水晶とダイヤモンドが

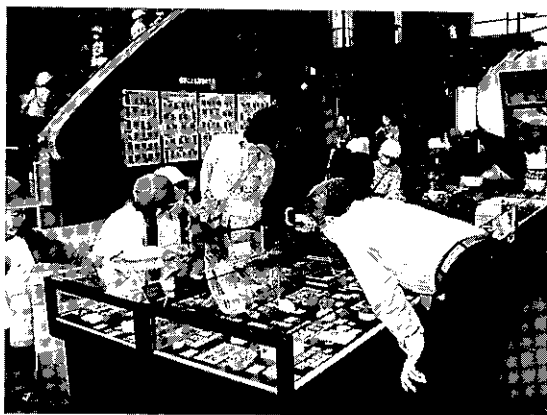


第2図 平形展示ケースの一例。アジアの鉱物切手とそれに対応する鉱物標本。右下には、日本の切手も見える。



第3図 鉱物切手展示パネルの一例。

デザインされた切手が発行されていますが、鉱物に興味を持つ人々からはまだまだ物足りない状況です。我が国の固有の生物をテーマとした切手、例えばトキやオオムラサキ、ニホンカモシカや、様々な美しい植物切手が発行されている中で、世界に誇れる輝安鉱の巨大結晶や、「日本式」と呼ばれる水晶の双晶は、切手の図柄として恥ずかしくないだ



第4図 切手の鉱物展を熱心に見る入館者。

けに、その実現を夢見ています。

この展示は、4月16日に始まり、6月16日まで行い、盛況でした(第4図)。

また、展示期間中の4月18日には、地質標本館映像室にて「鉱物の名前とその由来」(講演者：豊 遙秋)、「温泉から生まれる鉱物」(講演者：青木正博)の特別講演を行いました。

(春名 誠・奥山 康子・豊 遙秋)